

第 1 2 回総合教育会議会議録

日時：平成 2 8 年 5 月 2 4 日（火）

午後 3 時 3 0 分開会

場所：市本庁舎 4 階 庁議室

出席者	津市長	前 葉 泰 幸
	津市教育委員会	委員長 庄 山 昭 子
		委 員 上 島 均
		委 員 松 本 昭 彦
		委 員 滝 澤 多佳子
		教育長 石 川 博 之

教育次長 前葉市長から「第１２回津市総合教育会議」の開会のご挨拶をお願いします。

市長 それでは只今より、第１２回津市総合教育会議を開催いたします。

教育次長 ありがとうございます。本日の「協議・調整事項」といたしましては、「土曜日の教育活動について」の１件でございます。それでは、早速入りたいと思いますので、まずは、事務局からご説明をさせていただきたいと思います。

教育支援課長 教育支援課長でございます。土曜日の教育活動について説明させていただきます。資料１をお願いいたします。土曜日の教育活動の目的でございますが、津市では地域における体験活動や多様な教育活動の充実と、学校、家庭、地域の連携による開かれた学校づくりを目指し、取組を推進しております。土曜日の教育活動の内容につきましては、通常の教科学習や外部指導者を招いた特別授業・講演会、地域と連携した体験活動公開授業や参観授業等でございます。次に、平成２７年度の津市の土曜日の教育活動の実施状況ですが、まず(1)の実施回数につきましては、年間８回、原則第３土曜日に実施しております。そのうち、教育課程内の教育活動である土曜授業は、小学校では３回が最も多く、２６校の実施となっており、中学校では各学校ごとの実施回数が３回から８回と異なっております。また、(3)の他市との比較でございますが、年間８回実施している市町数は、津市を含め２０市町でございます。実施週につきましては、北勢地区だけが第４週となっており、それ以外は原則として第３週の実施となっております。津市の土曜授業の実施内容につきましては、小・中学校とも学力の定着・向上に向けた授業や伝統、文化的な行事を取り入れたものが多くなっております。以下、防災学習・防災訓練、補充学習・発展学習などを実施しております。また、授業の実施方法につきましては、複数回答であります。通常授業や、家庭、地域住民等への公開授業が中心となっております。次に、土曜日の教育活動に対する児童生徒、保護者の意見としましては、児童生徒では、「友達と一緒に過ごせるので嬉しい」「平日の授業と違った学習内容があってよい」「地域行事への参加が増えた」「習い事や部活動などの時間と重なるので困る」「月曜日は疲れる」となっております。また、保護者では、「土曜日の授業をもっと充実してほしい」「今後も継続して進めてほしい」「参観しやすく、学校や子どもの様子が分かってよい」「土曜日の授業をする必要がない」「家庭での行事や習い事との調整がより必要となった」と様々意見がありました。平成２７年度における土曜日の教育活動の成果と課題についてですが、まず成果といたしまして、「授業時間や補充学習への対応の時間が確保できた」「保護者や地域の方々の教育活動への

参加・参画が増加したことにより、多様な教育活動が実施できるようになった」「児童生徒の地域行事への参加が増加したことにより、世代間交流が促進された」などが挙げられます。課題といたしましては、「児童生徒の休日の活動が過密になり、月曜日に疲れを見せる生徒が多い」「部活動や社会体育の調整が困難である」「家庭での行事や習い事との調整がより必要となった」「外国につながる児童生徒の欠席が多い」となります。これらを踏まえて、土曜日の教育活動は、豊かな体験活動や多様な教育活動の実施が可能となり、地域に開かれた学校づくりとして有効です。しかしながら、学校週5日制が定着している現在、休日に豊かな社会体験や自然体験、クラブ活動、習い事などを子どもたちが選択し、活動を行っている状況の中、土曜日の教育活動の実施により、子どもたちの休日の活動が過密となり、調整が難しくなっていることに加え、月曜日の子どもたちの様子には疲れが見受けられます。こうしたことから、子どもたちの総合的な学力を向上させるためには、多様で豊かな教育活動を保障するとともに、負担感のない充実した余暇の過ごし方についても検討する必要があります。以上でございます。

教育次長 事務局から説明は以上でございます。先ほどの説明を受けまして土曜日の教育活動についてということで、よろしく願いいたします。

市長 はい。では、自由にご意見をいただくんですけども、経緯、別紙2の説明はあったのかな。

教育支援課長 まず、別紙1でございますが、別紙1については国の方から土曜授業の実施に係る学校教育法施行規則の一部改正につきまして、背景につきましては、土曜日において、子どもたちにこれまで以上に豊かな教育活動を提供し、その成長を支えることが重要であり、そのためには学校、家庭、地域が連携し、役割分担しながら学校における授業や地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動などの機会の充実に取り組むことが重要であると、そういう背景のもと、土曜日を当該学校を設置する地方公共団体の教育委員会が必要と認める場合は実施することが出来るというふうに施行規則の一部が改正されたものが別紙1でございます。別紙2につきましては、この国の動向を踏まえ、県の方で同様の趣旨で取組を推進するために、特に土曜日の活用については、週時程の平準化を図ることで、平日における補充的な学習や発展的な学習が行える等、様々な取組を各市町で実施できるようにということで推進している通知でございます。以上でございます。

市長 今日、我々が、津市の土曜授業がどうだとか、総括だとか、この総合教育会議で評価するというのは、なかなか難しい面があると思うんです。というのも事務局からの説明も非常にためらいがちというか、ご遠慮されているというか、自信なさげという感じで、あんまり明快なことが資料に書いてないですよ。私がポイントとして思っていますのは、何を目指して土曜授業をやろうとしているのか、土曜活動を充実させたいのかということです。2年たって、最近、だんだん皆が分からなくなってきたという感じがとてもするようになってきました。土曜授業をやること自体がゴールになってしまっているような感じがあって、今日何か答えを出していくのではないとしても、1回立ち止まって、土曜授業ってどうなんやろうということを、フランクに皆で議論しとかなないと、何となくありきみたいな感じになってきたという感覚があります。それで一つ客観的な証拠みたいな話ではないんですが、5月11日に市長会と町村会が合同で三重県との意見交換会を行いました。そこで、山口県教育長が、学力向上対策ということで、「学校の教育力向上」と「地域・家庭の教育力向上」の2つの範疇に分けて説明されたんですが、何と土曜授業は「学校の教育力向上」じゃなくて「家庭・地域の教育力向上」に入っているんです。まずここが面白いなと思いました。学校が土曜授業をやって、学校が子どもたちの学力を向上させるのではなくって、「地域・家庭」に入っているんですね。それが1つです。それで、しかも、学校、家庭、地域が役割分担しながら土曜授業を実施していますということで、19の市町で年間8回以上、あるいは8回程度やっており、もうちょっと少ないところもありますみたいな数字だけの報告がありました。それで、私は2つのことを発言しました。1つは、今申し上げていることなんですが、いったい土曜授業というのは何を目指しているのかということについて、県教委は何か話はないんですかということです。スタートする時、三重県教育委員会は今日の資料2に出ている平成26年2月26日付の文書で、土曜授業というのはこういう良いことがありますという話をしておいて、それには別紙1のような背景、国としての方向があったにも関わらず、その後、成果が出ているのかどうかということについて、あまり説明がないということです。私も最初、土曜授業は良いんじゃないかって思って旗を降ったんですけども、結局、県教委として、やること自体が目的になっていませんかと言っておきました。2番目は、これは技術的な問題ですが、地域を回っていますと、土曜授業によりスポーツ少年団などのいろいろな活動がしにくくなっており、しかも、土曜授業の日が統一されていないことによって、試合を組みにくくなっているということを言われます。これは、私が質問する前に、山口県教育長が、土曜授業について社会教育との関係で、若干の齟齬が生じているようなので、市町教育委員会に対して社会教育の主体とよく話をするように、今後指導しますみたいなことを言われたので、申し上げました。それはあ

べこべやろと。あなた方は、第3土曜が良いですよと薦めて、薦められたとおりにやっているとところが、何で一生懸命説明せなあかんのやと。今日の資料にあるように、北勢が勝手に第4週にしとるだけやんかと。それでは第3週じゃない人が、何故うちは第3週にしないのかということの説明をしないんじゃないんですかと。うちは言われたとおりに第3週にしているのに、何故、試合の遠征が出来なくなっちゃうんですかという話をしました。それは、運用は原則第3週なので、運用が不十分でございますので申し訳ないという答弁をされていましたが、それは挙証責任が逆だと、市町教委が説明責任を負わされるというのはおかしいのではないかと申し上げておきました。一番目の件については、特にこの場でお話ししたかったことです。では、どうぞご自由に御発言ください。いかがですか。庄山委員長。

庄山委員長 私は平成4年に、学校を土曜日に休みにしたらという意見が、ふつふつと出てきまして、その調査の一員として調査をずっとしてきて、土曜日を休みにするということで、県教委へ報告する役割をいただいていたんです。その時に、地域として子ども達の受け皿がきちんとできるかというようなことを調査し、報告していました。始めの頃は、地域も家庭も非常に戸惑いがあったて、土曜日に1日子どもを返されたらどうするのと、特に小学校の低学年はどうしようか、誰が面倒をみるのかということで、意見が出ました。ですが、何とかそのことが定着してきて、平成6年でしたか。月1回休みになって、その後、月2回休みになって、そして、平成14年に本格的に週5日制が始まったわけです。その頃には、地域の住民の方々もこの学校が休みになった土曜日には子ども達の面倒を見なくてはいけないというような心というか、そういうようなことが出てきまして、様々なスポーツ少年団とか、あるいは地域の行事とか、スポーツクラブのようなものであるとか、いろいろなものを立ち上げていただいて、本当に地域の方々にお世話になったというふうに今思っております。この理念というのは、家庭と学校と地域で子ども達を育てるということで、私たちは、「土曜日が休みになりますので、学校の教職員も出ますけれども、地域として受け皿としてよろしくをお願いします。」というようなことを盛んに話してきたわけです。そこで、平成14年ですから、それほど経たない間にこういうふうな学校教育法施行規則が出てきました。土曜日にしなければならないということは、何故こういうことが出てきたかなということは、薄々と感じるわけなんです、果たして土曜授業をしたことによって、確かにあの時に35週あった中で、3時間、100時間程度授業時間が減ったわけです。そして、「ゆとり」ということで、総合的な学習時間が増えて、授業時間数が急激に減ったんです。そのことの反省もあって、土曜日というようなことも出てきたのかなということも思うんですけれども。

私達がここできちんと、土曜活動をすることに對して、土曜日に学校を開くことに對して、地域の皆様と、家庭の皆様にこれだけお願いをしてきたので、やはりここで、その方々が活動することに對して迷惑をかけるようなことは、絶対いけないと思います。そのことをきちんと踏まえて学校を開いていかないといけないというのが1点です。それから、先程市長が言われたのが、もうそれ全部だと思ふんですけど、土曜授業が、何を狙っているのかというのが、本当にはつきりしないと。それで、この資料1を見せてもらっても、児童生徒と保護者の意見があるんですけども、学校の先生はどんなふうに考えて、例えば、この子達は土曜授業をしたから、ものすごく学力が付いたとか、この土曜日にやったから、復習が出来てよかったなというそういうようなことがあるのかどうか。今は本当に分かりにくくて、私達も今ちょっと見えていない部分があつて、そういうような資料もほしいです。順番に丁寧に始めたんだから、丁寧にまた復活をしていただきたいというのが、私の今の意見です。

市長 ありがとうございます。丁寧に始めたのだから、丁寧に復活してもらいたいというのはよく分かります。今、非常に荒っぽいですね。復活するそのことが事後目的だったのというふうに疑わざるをえないような何かあるなというような感じです。ですから、私は、山口県教育長には市町村教委と丁寧に話をしないと、なかなか続けていくのが難しくなりますよと。私は悪いことだとは思っていないけれども、今の様な感じでは、というようなことは言ったんですけども、今、庄山先生から昔からの経緯の話をされたので、余計そんな感じがします。

教育長 ちょっと今の件で、客観的なお話なんですが、市教委の方にも、保護者の方からいろんな声が実は入るようになったんです。先程の第3週、第4週の問題で、結局どうなったかという、今まで土曜日に大会をしていたものを、結果として日曜日に実施してしまっています。そうすると、子ども達は、土曜日も日曜日も休みがなくなってしまったというお話がたくさんあるので、そうすると、月曜日はめちゃくちゃ疲れているというような話が段々増えてきているのが、事実としてあります。もう一点、その効果のお話で、先週いろんな教育長さんとお会いする時があつたので、土曜授業どうですかと効果をいろいろ聞いたんですが、津市よりも教育課程の土曜授業をたくさんやっというところがあるんですけど、明確には効果としてはぽんと返ってくるお話はありませんでした。やりかけたばかりだからというようなご意見はあつたんですが、現状としてはそういうのがあります。ちょっと御報告させていただきました。

市長 はい。次は。どうぞ。

上島委員 例えば、保護者から言えば、学校へ来る機会が増えただけのもの。津市の場合、振替はしましたけれども、授業参観を土曜日にやったり、実際にやっていたと思います。

市長 昔からね。

上島委員 ええ。やっていない地域があったらそれは別ですけども、ですから、そんなにすることに変わりはないんじゃないかなと。それから、地域との結び付きは、地域に返してやることも必要と思うんです。もっと地域の中へ入って、例えば祭りに地域の人と一緒に参加していくとか、そういったことが大事です。土曜日が休みになった、そのことによって何かと言ったら、子ども達をもっと社会へ出て行く、普段学校で勉強したことを応用していく機会をつくってやらないといけない。その面では、ある時にゆとりという形で授業が、これは教師の問題なんです、やはり教員というのは、決められた枠の中しか出来ず、この子達にいろんなことを体験させてやろうとか、そういう企画力がやっぱり弱かった。そのことが、文科省から来た人達が、どうですかということであまりセンスの良いことを言わなかったんです。大変ですわ、えらいですわだけで。僕はあの時に、これでいろんな行事の中で子ども達が自分達で考えていろんなことをすることが、ここへ集約させていったら、放課後遅くまで残ってとか、そんなことをしなくても授業の中で組んでいけるな、いいなと思ったんですが、結局それを皆の先生がそういう形でいったらよかったんですけども、何か負担感だけが残ってしまった。そのことが、文科省に届いていった。そうすると、ゆとりは無駄な事ではないかと、週5日の中で学校で学習したことをやっぱり、それを自分で応用していろんな中で使っていける力をつけてやることの方がずっと大事ではないか。そこら辺の部分を、もっと日本の国全体が考えないといけない、あの時に単なる学力調査だけでそこへ引っ張られてしまったことに対して、本当の力とは、何をつけてやったらいいのかというところに、メスを入れなかったことが一つです。まあメスを入れたかもしれませんが、そこまでいかなかったということで、非常にそのことが残念で、それこそいろんな活動で、地域の人達と一緒にお手伝いをしたり、そういったことをしていくことが、この土曜日という中でやれたらいいなと。ただ一つ、学校が月に1回でも、土曜日の休日をなしにすると、部活がなしになります。午前中。その間に子ども達を地域に出せるんです。そういう面では、ある面、ですからこんな土曜授業にしなくても、この日は全国一斉に部活のなしのとか、地域の日とか決めて、その方向にしていっての方がもっと効果的ではなかったのかなということを感じています。

市長 今の、上島委員の、例えば地域の日という土曜日の使い方として、また別のやり方があったのではないかと。今は、ちょっとはつきりしないでしているという。いかがでしょうか。

滝澤委員 素人ですので、土曜日の授業が、教育活動をするというのが伝えられた時に、授業は増えると、学力が向上するんだろうと、ゆとり教育への批判が行われていましたので、土曜日の授業が増えると、学力の向上が図れるんだろうと、単純にそう思ってたんです。今この現状を見ますと、年間8回で、教育課程内の教育活動というのは3回、だいたい3回、それ以外の土曜活動というのは、これ、聞きましたら、強制ではないんですね。出たい方だけが出るということで、強制力がないんですね。こういう中途半端な活動をやっている、何の効果が上がるのかと、中途半端で腹が据わっていないとか、学力を向上させるつもりだったら、しっかり授業をしていただきたいというふうに思うんですよ。目標と、その周りのいろんなきれいな言葉に本音が隠されている部分があるんじゃないかと。そうすると、この土曜授業を始めたのは、やっぱりいろんな反省から子ども達の学力が落ちているんじゃないかというところで、もうちょっと強化しよう。出来ない子は、ここで補習とか復習とか、そういう時間に当ててしっかり学力向上をさせたいというのが本音の方針ではなかったのかなと。国とか県の。そうすると、今のこの活動が非常に何か中途半端ですので、もう少し、腹を据えた方針を立てて、やるんだったら、しっかりやる。地域活動については、私は子どもの頃は、例えば津のお祭りの時には、学校はお休みになりまして、お神輿担ぐんやったら休んでええよということで、家庭も地域も一緒になってお神輿を担ぐ活動をしていたと思うんです。学校の手助けは借りてなかったと思うんです。だから、もう少し自主的に家庭なり子どもなり地域なりが子どもに参加するように企画していただいて、学校の力をあてにしないでほしいと思います。もちろん、それを、教えるのはそういう機会があればもちろんあればいいんですが、本来の土曜活動とか土曜教育活動の本来の目的、主たる目的は何かということをもう一回しっかり考えてみた方が良いのではないかと。そして、より効果が上がるように。これは先生方にも負担になることだし、子ども達にも負担になることだと思いますが、例えば、活動に参加するのは強制であれば、自由時間が増えるわけですから、他にゆとりが出来るわけですね。通常の平日の授業にゆとりが出来るので、それはまた別の活動にも出来るのではないかなという気もしましてですね、ちょっと腹が据わっていない感じがします。

市長 恐る恐る始めている感じはありますよね。でも、滝澤さんがおっしゃったのが一番市民感覚だと思います。実際にそういう感じはありましたよね。スター

トする時に。これで、教科の授業が増えて学力が向上するんじゃないかという、何となくそんなイメージはありました。

教育長 はい。そうなんです。土曜日のこの教育活動はこれまでちょっとその二つの側面から見てきて、一つは、国が改正した当時、国の日本中のベクトルとしては、学力向上が絶対あったと思います。でも、実際にこの文書に書かれているのは、多様な地域活動とかいろいろなものがここに少し、ふわっと書いてある。津市の場合は、資料にも書いてあるように、体験活動あるいは多様な教育活動の充実、これを大きな目的に据えています。が、学力の定着の面からいくと津市は3回を一応やりました。実は8回、回数に問題がひょっとしたらあるかもしれないので、8回とかたくさんやってらっしゃるところの教育長さんに、たまにどうですかとお聞きするんですが、非常に学力が変わったとか、土曜活動との因果関係はどうなんですかねというのは、明確な御返答はなかったですね。その中で、学力に求められる内容が、どんどんどんどん変わってきている中で、土曜日に授業をして教科をやることだけが、本当に学力を確保するのにどこまで効果があるのか、ちょっと疑問を持っています。

市長 ちょっと素朴な質問をするけれども、土曜授業をやると、授業時間が増えるの。

教育長 増えます。実は、その土曜授業をやった時に、逆にどこかで平日の6限目をなしにして、その分、授業数の実数を変えないということも出来るんですけども、津市の場合、ほとんど実数の純増です。

市長 そしたら、さっきの話ではないですが、土曜授業をやったことにより、庄山先生が最初言われた、学校の先生が、非常に丁寧に教えられるようになったとか、もっと滝澤先生はダイレクトに成績が上がったとか、そういうのが出てきてもいいような気がするけど。

教育長 だと思いますが、直接そういうような話はちょっと今のところはデータとしてはないです。

市長 教育長さんのような幹部の人達が聞かれて、「いやあ、うち、それで子ども達成績上がりましたわ。」というふうによる答えへんわな。そうなったら「じゃ、証拠見せてみい。」と言われる。どうでしょうかね。松本先生。

松本委員 今学力のお話に関わって、資料1で各学校に内容について、土曜授業をしているかという目的みたいなものだと思うんですが、小学校、中学校、いずれも学力の向上というのはかなり多くの、ほとんどの学校で上げているという感じだと思うんですが、その下の6番の子どもさんとか、保護者の意見に、授業をやるという中での、例えば、児童生徒の2番で「平日の授業と違った学習内容があつてよい。」とは、あるから嬉しいというか、あるからよいと思つていているという意味で捉えますけれども、一方で、保護者の方の4番だと「土曜日の授業をする必要がない。」という意見もあるということですけれども、今のその学力向上の話で、例えば、土曜日3時間を数回やるという時間数と、もともとある時間数と比べると、ほんの何パーセントとか、比率で言うとそんなに劇的に増えるということでもないの、その数字で見るとそのことによって、直結して学力向上というところへどこまでいくかということは確かに疑問のところはあるように思います。課程内の授業ということにしても、これまでの授業をそのまま増やすみたいな、金曜日に国語のある教材の4段落目をやったので、次の土曜日は5段落目をやるとかというふうな、全くその平日と同じものをちょっとだけ増やすというよりもむしろ、もうちょっと実験的というところとちょっと語弊があるかもしれませんが、例えば、3時間なら3時間をひとつの教科を通して、国語なら国語の単元について、いろんな御意見はあるかと思うんですが、たとえば、次の学習指導要領の改訂でも、アクティブ・ラーニングがすごい入ってくるということなんですが、アクティブ・ラーニングを意識して授業を組み立ててみる、文科省が言っているようなそのままというよりも、批判的というか批評的に取り上げてみて、研修的な意味も込めて子ども達と一緒にやってみるというような授業だと、土曜日の授業を普通にいつも平日にやっているのをわざわざ土曜日にやる必要はないというような御意見に対しては、ちょっと答えになるのかなというふうに思います。ちょっと平日とは違う形の授業をとというのもあり得るのかなというふうに思います。

市長 はい。ありがとうございます。そうゆう平日とは違う形で授業をやっていくというところとか、ダイレクトに土曜活動の方を重視して地域との連携でうまく出来るところとか、それから、授業実数を増やすことを目的にして、成績が上がったとか、そういう何か良い例は他にはないのかな。よそで。この土曜授業は、全国ほぼ一斉に始まっているわけで、そういう、成功例のようなものはどこにもないのかな。事務局は何かそういう情報はありますか。

教育研究支援課長 今、分かっている内容につきましては、先程もありましたように、特別な3時間をうまく使って、普段の授業で進めてきた内容をそこで、外

部の方に参加していただきやすいように、外部人材を招いて、救命のことであれば、そこで集中的にやるとか、そういうので効果があって、それが定着するというケースは幾分かあると。ですので、やはり、土曜日に特別な教育内容を入れるというケースについては、保護者や子ども達からの反応は良いというのはいくつかあると思います。

上島委員 質問ですが、全国でどのくらい土曜授業というのはやっていますか。

教育研究支援課長 正確な数字は持っておりませんが、最も多いのは、やはり東京都、それから埼玉、これはもう断トツでやっております。その次は、三重県という状況ですので、ほとんどがやっていないという現状でございます。

市長 やっていないところが。

教育研究支援課 全くやっていないというわけではないんですが、学期に1度とかそういう数が大半でございます。津市のように月、大体1回ずつやっているところというのは、もう、上位になっておりまして、大体上位5県ぐらいのところがそんな感じでございます。

市長 知られざる事実が、いろいろ発見されたという。

上島委員 現場の声としては、土曜授業の方が楽なんだと。というのは、先程言った特別の授業をしたら大変なんです。ということは、そのために別のことをしないといけないのですが、授業のライン上やと、それは一つの流れの中でやれる。ところが、土曜活動になると、そのための準備が平日、他の日にしっかりとかかってしまうと。そうすると負担感が多くなってしまいうということをよく聞きます。

市長 確かにね。

庄山委員長 先程、上島委員が言われたことが、まさしくそのとおりだと思います。地域行事の中に子ども達を入れていくというのは、また、地域に子どもを返していくというのは、学校が開いていて、学校が引率してまとめて地域に入るといふのと、ちょっと違うと思うんです。やっぱりそれは、子ども達が自らの責任で、一人ひとりが行こうと思って行く。そういうことが、私はその子の自立とか、成長とかいう意味で非常に大事で、挫折する時もあるし、成功体験もすることも

あるでしょうけれど、地域の一員で、やった、大失敗したというような体験が、その子に今後生きてくるんじゃないかと思うんです。学校がそろって、先生が、「はい、これ、やりましょう。」というのは、それは、地域に入っていくのと違うんだろかなと。ですから、土曜日に、もしその今、三重県がすごいということで、力がなくなったんですけれど、東京、埼玉の次に三重県か、ということで、ちょっと力がなくなっておるんですが、もしするのであれば、地域は地域でやるんですけれど、そうじゃなくて、学校でいろんな方に講演していただくとか、そういうようなものなんだろかなと思います。それから、もうちょっとはつきりと、授業するぞ、というふうに、月1回復習の時間とか、例えば。よく残して、先生達は、定着しない子ども達を4時、5時頃まで残して勉強させるんですけれど、定着している子ども達は伸ばしてやればいい。出来なかった子は、その子達を定着する時間というふうにしても、それは問題なんですかね。ちょっと分からないですけれど、それはもう意見ですので。それが、良いかどうかは、分かりません。

市長 そうですね。だから、やっぱりいろんなことがあぶり出されてきたのは、結果として三重県は全国的に見ても土曜授業をたくさんやっているという状態に、県教委はなんかものすごく満足しているのではないのかな。で、あんまり、市町教委に対してですね、逆に検証なんかしてしまうと、あれ、ということになるのかな。あまり踏み込むといかんかな。

教育長 でも、保護者の方の声として、土曜日の日に授業参観があるっていうのは、お父さん達にはこれはやっぱり嬉しいと聞こえる。

市長 それは昔からやっているんです、振替で。それはそれでいいことだと思う。

教育長 そういう意味では、活動はやっぱりあってもいいのかなという声がするんですけれども、その反面で、子ども達の活動が少しくつくなり過ぎるというのは、あれかなと。土曜日の授業参観というのは、お父さん達に見てもらって家庭学習をそれにつなげることができるので、我々としても少し興味があるところはあるんですけれども。

市長 じゃあ「もうちょっとはつきりしてよ。」という御意見に対しては、教育長として何か一応ここで一声。

教育長 個人的には、私見で、まだまとまったものは無いんですけれども、必ずしも土曜授業として、何回かっていう規制をかけてやっていくことの意義としては、今のところ少ないというふうに思います。土曜日に地域と触れ合ったり、

あるいは今もありましたように、文化行事をやったり、地域活動に参加する、これは非常に大きな教育効果もありますので、これが今うちは年間8回ということになっています。この8回の回数は検討する必要があると思います。そうれともう1つ、3回と規定しているのは、少し弾力化すべきではないかなと個人的には考えています。

市長 なかなかこういう話で、「はっきりせんやないか。」と言われると、教育委員会は「いや、そうですね、それじゃあちよっと弾力化、各学校に任せましょうか。」っていう雰囲気になってくるんやけど。そうするとまたそれはそれで各学校も困っちゃうよね。

教育長 もう1つ、実は次期の指導要領の改訂の中で、これはどういう形に授業が変わってくのかなって言っている矢先に、この間、馳大臣がゆとりに対してまた少し方向の違う緊急提言みたいなのを出されましたので、こういう動向もちよっと実は気になるのは気になっております。今きっと、ぽんと何かっていうのを明確に出してしまって、その状況が32年からまたどうなるのっていうふうな、混乱を起こさないために、少しそれは様子を見ないといけないというのはあるかな、っていうのは実は先週から少し感じております。

市長 さあ、いかがでしょうか。

上島委員 やっぱり、どういう子どもを育てるかっていうのを津市のはっきりしたものがあつたときにですね、それは、例えば、土曜授業で必要なのか、土曜日の活動が必要になったらいろんなことに関わってくると思うんです。さっき言ったように、例えば、子ども達に個々の力をつけてやろうと、それぞれの持っている力を伸ばし合おうやないかという動きがあります。保護者やいろんな地域も、いろんな多彩な考え方があります。その中で、学校っていうのはある程度枠の中でやることですが、そこから個々に伸ばしてやるというのは、やっぱりその時間をとってやらなあかんと思うんです。それは、今までで言ったら土曜日や日曜日に地域に入っていったり、他の人とつながったりすることによって、その子の持っている力をさらに伸ばしてやるという、まずは必要やと思うんです。そういう場として、やっぱり津市は、土曜日はこういう使い方をしようやないかと、こういう子どもに育てたいから、こういう使い方をしようやということが、やっぱり必要になる。そのためには、言ったら、モットーというか、市としての考え方、どんな子どもを育てよう、ということが一番柱に無ければあかん。これがぐらつくと、結局、学力や何や、ああや、こうやとなる。僕は、青少年健全育成

を3年間やらせてもらったときに、言わせてもらったのは、中学生をとにかく地域の行事に参画させよと。僕はその経験は何かというたら、校長時代に地域の福祉運動会やそんなんに、中学生は参加させよと、それで手伝えと。それを見せてもらった時に、学校で運動会の中で係活動をしたことがそのまま生きておるんです。これこそまさに応用なんやと。そのことで、今度は地域の人から喜んでもらった。「ありがとうな、ありがとうな。」と。そのことはその子にとって、ものすごい自信になるんですから。そういう機会をやっぱり増やしてやらなあかんのと違うかと。それが、逆に言ったら次の世代へもつながっていくことにもなんです。が、今、切れとるん違うかという、やっぱりそこら辺の、何を目指しとるんやと、どんな子を育てようとしとるんやと、そこがはっきりしていたら、自ずと土曜授業はどうあるべきやということは見えてくると思うんです。

市長 それも大きな我々の視点ということで、議論して整理していかないといけないポイントですね。もう一声いかがですか。滝澤さんどうですか。

滝澤委員 現状はこういう感じで、土曜授業が、教育活動が進んでいるとは知らなかったの、市民の感覚で、素人で申し訳ないです。しっかり土曜日は授業していただいているもんやとばかり思っていて、私が子どものころは土曜日に授業があるのは当たり前で、それだからといって何か生活に支障をきたしたりということは無かったように思うんですよ。結局は国の行政の方針がぶれるということが、最初、通常の授業時間の確保から週休二日になって、もっと多様な活動を子ども達にということになって、さらにゆとりへの反省から学力を強化しないといけないという、このぶれ方ですね。皆さんが準備してみえたところが、またさらに学力重視の方針になってきています。馳大臣がまた今度どのように言われるか分からないんですが、もしかすると学力強化の方にいく可能性が強いか、という気がします。その中で、学校教育の本分であります、学力重視、学力の向上というものが、本来、土曜活動の中にも、ある程度重点的に入れられるべきではないかなと思います。というのも、学力が伸びるか伸びないかっていうのは努力の結果で、勉強するかしないかだと思うんですよ。先生の教え方や好き嫌いもあるんですけども、やっぱりしっかり勉強した子は学力がついていくと。で、個性重視ということもあるんですが、小学校や中学校の教育は基本ですので、本来すべて子ども達が学ぶべき知識として、定着すべき内容だと思うんですね。それをやった上で初めて抑えようとしても抑えきれないものが個性で出てくるんだと思うんです。まずは小中学校で教えるべきことを、子ども達がしっかりと学んで定着、学力として定着することが、学校の本来の趣旨、一番大きな目的ではないかなと思います。で、もちろんそのためには地域の力も

借りないといけないし、家庭の力を頼るということももちろん必要なんですけれども、土曜活動をする上ではですね、私の個人的な意見はですね、やっぱり基本的な学力の定着というところが、学力の向上につながるようなところを、土曜授業で生かしていただきたいと思います。ちょっと不十分なところを補うというか、そういうところでこの土曜活動を生かしていただければなど、個人的な思いなんですけれども、それは思っております。

市長 ありがとうございます。松本先生。

松本委員 はい、地域との連携というところにも係ると思うんですけど、小中一貫というのを打ち出してますので、土曜日の中で、先生方の負担が増えるというのはまた別の問題が出てきてしまうと思うんですけども、子ども達がちょっと中学校に行ってみるとか、そういう小中一貫の形で土曜日の活動を、何か使えるところもあるんじゃないかなと思います。

教育長 今のやつが、多くなってきたのが、授業中にやっていた避難訓練を土曜日にもってきて、校区で中学校と小学校が一緒に避難訓練をして、お兄ちゃんが小さい子の手を引いて、とかっていうのができるっていうのはありますね。確かに。

市長 はい、だいぶ話が進んできました。他に何かございますでしょうか。最初からね、ここで結論を出す話と違うかなと思いつつも、しかしながらこの総合教育会議で取り上げて、現状というのを我々も把握をできたという意味で、良かったと思います。私の方で少しまとめということでもないですけど、少し総括させていただくと、一つは、土曜授業や土曜活動をやること自体が到達点ではないはずです。その点、常に我々として、しっかりとこの土曜授業、土曜活動の状況を見続けていかなければというふうに思いますね。加えて、今日皆さんの御意見は、要するに何をするのか、何を指すのかということをはっきりさせた方が良いでしょう。それはひょっとしたら地域活動にどんどん入っていく話なのかもしれないし、ひょっとしたら、もうちょっと学力をとということですね、ターゲットを絞り込んだ方が良いでしょう。まあいろいろあるんですけれども、如何せん今の状態は、非常に中途半端というか、腫物に触るようなというかね、ちょっと分かりにくいよねと、世の中に対しても説明しにくいよね、ということであります。それらについては、この政策自体をもうちょっと評価の対象としなきゃいけない。それは最初に申し上げた、やること自体が自己目的化しないようにということと重なるんですが、評価の対象としないといけないの

で、児童生徒にとってどうかとか、保護者にとってどうかということで、学校現場の先生方がどんなふうに捉えているのか、あるいは管理職がどう捉えているのかというようなことをもう少し現場の声に耳を傾けながら、今後の土曜授業を津市はどのようなふうに市教委として進めていくのかというようなことを、もう少し地に足のついた議論をしないと、なんとなくこう、ふわふわとした感じで今後も流していくには、やや無理があるかなという感じがいたしました。この点もということあったら、おっしゃってください。よろしいですかね。では以上で今日の議論は終わりたいと思いますので、事務局にお返しします。

教育次長 ありがとうございます。それでは2番、その他でございますけども、事務局からはございませんが、各委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは何もございませんようですので、これをもちまして、本日の事項はすべて終了いたしました。市長の方から、閉会の御挨拶をお願いいたします。

市長 では、第12回津市総合教育会議の審議をこれで終了いたします。本日はありがとうございました。

各委員 ありがとうございました。